

# 軍事 依存経済

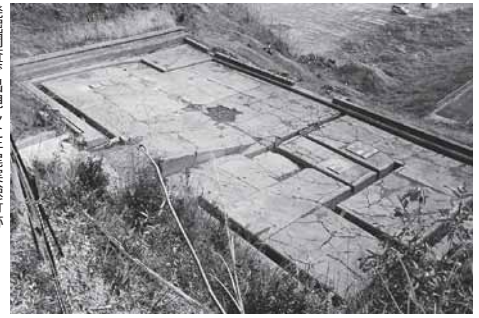
第2次世界大戦末期の「牛尾実験所跡が治水目的の河川工事の対象地域に入ったこと」から、発大な実験所跡をつくり、掘削の手がかり、その結果に衝撃が走りまわった。大井川沿いの牛尾山の中腹から幅31・2メートル、奥行き16メートルの巨大な電源室のコンクリート基礎がほぼ完全な形で出現。発射管を備えた放射線を発射するパラボラ反射鏡を支えるための基の台座の位置も明らかになった。

命中率10倍以上

戦中の電波兵器の研究をしていた東京工業高等専門学校河村豊教授は、これまで殺人光線について、実現不能な常軌

## 溶け込む軍産学

⑧



発射管が出現した牛尾実験所跡。静岡県島田市(白井利之さん提供)

# 殺人光線の記憶

島田の近代史を調べている新井雅巳さんは、取りを進めるなかで、自ら死した現場責任者が遠い親戚にあたることを知り、歴史を後世に伝える場所として残してほしかったと惜しみました。

歴史のなかに消えた殺人光線の遺構。戦中の島田で、科学者たちはどのように研究に携わっていたのか。実態を探ると、現代に通じる問題点が見えてきます。(つづ)

# 東芝報告は「不合格」

## 格付け委評価「第三者の独立性欠く」

東芝の不正会計を調べた第三者委員会の報告書について、弁護士や大学教授らで構成する「第三者委員会報告書格付け委員会」(委員長・久保英明弁護士)は26日、評価結果を発表しました。久保利委員長ら3人が5段階で最低の「不合格」と認定するなど、全体的に厳しい評価が目立ちました。

目以下の低評価として全面的に不合格だと批判しました。東芝の第三者委員は7月にまとめた報告書で「経営トップらが意図的な利益かさ上げや優先先送りを認めたこと、中止や不正を指示しなかった」と指摘しました。

### 完全失業率と有効求人倍率

項目	2015年(前年同月比)	2014年(前年同月比)
完全失業率	3.1%	3.1%
有効求人倍率	1.24倍	1.24倍
完全失業者数	206万人	206万人

### 10月失業率 20年ぶり低水準

総務省が27日発表した10月の完全失業率は、前年3月ぶりの低水準(3.1%)となり、3カ月が発表した10月の全国

# 基幹農業者平均67歳

## 農水省調査 総数も初の200万人割れ

農水省が27日発表した2015年農林業センサ調査(速報)によると、主に「基幹的農業従事者」は10年の前回調査に比べ13・8%減少の176万8000人となり、初めて200万人を下り、初めに67・1歳となり、初の67歳代が占める割合も

64・7% (前回61・1%)に拡大しました。また、農業に携わった主婦などを含めた「農業就業人口」は19・8%減の209万人。高齢化と農業人口の減少が同時に深くなっており、現状が明らかになりました。

耕作放棄地も増えており、前回は約3万3千ヘクタール(4090ヘクタール)増加しました。一方、農業経営体ごとの変化をみると、家族経営が18・6%減少した一方、組織経営が6・3%増、法人経営が25・5%増と伸びました。1経営体当たりの耕地面積は2・5ヘクタール(前回2・2ヘクタール)拡大しました。

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手、宮城、福島の3県では、農業経営体数が前年比で22%

# 蛍光灯製造 不可能に

## 政府 LED化を促進 省エネルギー性能に厳格化する

政府は26日、蛍光灯に関する基準について、省エネルギー性能に厳格化することを決め、LED化を促進しました。

蛍光灯や白熱灯の製造・輸入は、事実上不可能になります。消費電力が小さいLED照明への切り替えが、照明への切り替えを促進します。2016年度中に経済産業省の有識者会議で詳細を決める予定です。

# おはよう

## ニュース問答

みどり 自民党の谷垣一幹事務長と高村正嗣総裁が、パリで起きた同時テロ事件をきっかけに共謀罪の創設が必要だとい始めたわ。

晴男 共謀罪は、「テロをなくす」ことを口実に、戦争法や秘密保護法とあわせて日本を戦争する国に作りかえる恐れがあるケタ違いに危険なものだ。実は、秘密保護法(2013年成立)に共謀罪の規定がすでに盛り込まれた「秘密」を教えるもろおと相談しただけで、「共謀」が成立する危険がある。何が秘密かも秘密なのだから、どこまで処罰されるかわからないのが実態だよ。

国民弾圧する法

みどり テロを口実に、国民弾圧法をつくるなんてんでもない。

晴男 共謀罪は、人の内心の処罰につながる点で、戦前の絶対主義的天皇制が、結社や思想を弾圧した治安維持法の再来と呼ばれている。盗聴や監視カメラ、メール監視など人権侵害性の高い捜査手段が拡大することも重大な問題だよ。共謀罪創設にむけた動きをストップさせよう。

(2015・11・28 (土))

# 新二都物語

作 岸 拓 高木 亮

母ありて 8

内閣情報部が編集発行する「写真週報」はA4判の週刊誌で、世界情勢や国内のトピックが、目に楽しく鮮やかな写真で紹介され、見ているうちに自分たちがいかに優れた体制のものに刷りこまれている、ほろほろと感嘆する仕掛けだ。

しばしば表紙を飾るのは、政治家や軍人らこの国の指導者たちで、のちに絞首台にかけられたり無責任な自死をとげたりするものたちのポートレートが、最高の写真家の手で美しくヒーロー風に飾られた。

発行部数は最大三千万。以前から民間で出ている「アサヒグラフ」などをほかにしのぐ盛況ぶりだ。

となれば保官が自慢げな当然というべきだったが、彼はふと真顔になると、

「写真とくれば、次は当然、映画ということになるが……そこで元内務省映画検閲官にして今は満洲国弘報社勤務、満洲映画協会とも縁深き君に、手がけてほしい仕事があるのだよ」

# 「共謀罪」は危険 ストップさせないとね

みどり 自民党の谷垣一幹事務長と高村正嗣総裁が、パリで起きた同時テロ事件をきっかけに共謀罪の創設が必要だとい始めたわ。

晴男 共謀罪は、「テロをなくす」ことを口実に、戦争法や秘密保護法とあわせて日本を戦争する国に作りかえる恐れがあるケタ違いに危険なものだ。実は、秘密保護法(2013年成立)に共謀罪の規定がすでに盛り込まれた「秘密」を教えるもろおと相談しただけで、「共謀」が成立する危険がある。何が秘密かも秘密なのだから、どこまで処罰されるかわからないのが実態だよ。

国民弾圧する法

みどり テロを口実に、国民弾圧法をつくるなんてんでもない。

晴男 共謀罪は、人の内心の処罰につながる点で、戦前の絶対主義的天皇制が、結社や思想を弾圧した治安維持法の再来と呼ばれている。盗聴や監視カメラ、メール監視など人権侵害性の高い捜査手段が拡大することも重大な問題だよ。共謀罪創設にむけた動きをストップさせよう。

(2015・11・28 (土))

「写真とくれば、次は当然、映画ということになるが……そこで元内務省映画検閲官にして今は満洲国弘報社勤務、満洲映画協会とも縁深き君に、手がけてほしい仕事があるのだよ」

「それは……」

「にわかには緊張を覚えた謙吉だったが、内閣情報部が自分に声をかけた以上、その内容が何に関するものかはおぼろげな見当がついてはいた。

とはいえ、そのあと謙吉が聞いた内容は、目をみはるに十分だった。何よりそれは、佳佳のスパイ容疑による摘発の一件で、微妙になった立場を逆転させるに十分には思われた。

いや、彼女のご経歴の傷というより、彼自身の心の傷だったのかもしれない。あのあどろ子園光の新京でのコンサートと、ラジオを通じて「全日満中継」の成功で彼はたいに面目をほこしたし、何より娜汀・ナディアという女性秘書など、最初から存在しなかった扱いになっており、したがってそのこと言及するものは、少なくとも表面向きにはなかった。そう、満洲国では珍しいことではないのだ。ある日突然、個人はもとより家族まるごとが消え失せ、あとに何の痕跡も残さないことが――

ともあれ、彼に与えられた課題は、その空白を埋めるに十分という過言ではなかった。何しろそれは、――ありとあらゆる媒体を駆使し、「日・満・支」の親善を盛り上げよ。そのための物語を、歌を、スタァを送り出せ。いや、スタァというより、いっせ偶像というものがあつたのだから。

# 減少続く "身近な映画館"

中小規模の映画館の減少が止まりません。経済産業省の調査では、14年前年に比べて21館減っています。

この映画の舞台は、撮影場所となったのは、広島県福山市にあって「天黒屋」地元の市民に支えられて発展した劇場でしたが、昨年8月、多くのファンに惜しまれながら122年の歴史に幕を下ろしました。取り壊された劇場の姿を映像に残したいという関係者の思いに、広島出身の監督がこ

「写真とくれば、次は当然、映画ということになるが……そこで元内務省映画検閲官にして今は満洲国弘報社勤務、満洲映画協会とも縁深き君に、手がけてほしい仕事があるのだよ」

「それは……」

「にわかには緊張を覚えた謙吉だったが、内閣情報部が自分に声をかけた以上、その内容が何に関するものかはおぼろげな見当がついてはいた。

とはいえ、そのあと謙吉が聞いた内容は、目をみはるに十分だった。何よりそれは、佳佳のスパイ容疑による摘発の一件で、微妙になった立場を逆転させるに十分には思われた。

いや、彼女のご経歴の傷というより、彼自身の心の傷だったのかもしれない。あのあどろ子園光の新京でのコンサートと、ラジオを通じて「全日満中継」の成功で彼はたいに面目をほこしたし、何より娜汀・ナディアという女性秘書など、最初から存在しなかった扱いになっており、したがってそのこと言及するものは、少なくとも表面向きにはなかった。そう、満洲国では珍しいことではないのだ。ある日突然、個人はもとより家族まるごとが消え失せ、あとに何の痕跡も残さないことが――

ともあれ、彼に与えられた課題は、その空白を埋めるに十分という過言ではなかった。何しろそれは、――ありとあらゆる媒体を駆使し、「日・満・支」の親善を盛り上げよ。そのための物語を、歌を、スタァを送り出せ。いや、スタァというより、いっせ偶像というものがあつたのだから。